



豊後大野市教育委員会

会 議 要 録

会議名：豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会委嘱状交付式
及び第1回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成28年11月7日（月）14：58～16：46

場 所：豊後大野市中央公民館第一会議室

出席者：別紙のとおり

〈総 括〉

○委嘱状交付式

1. 開 会 （14：58）
2. 委嘱状交付 （14：59）
代表受領 田原靖憲さん
3. 教育長あいさつ （15：00）
4. 閉 会 （15：09）

○第1回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

1. 開 会 （15：09）
 2. 委員紹介 （15：09）
川野課長より1番～12番委員の紹介及び担当職員の紹介
 3. 委員長及び副委員長選出 （15：13）
互選により委員長に渡部幹雄先生、副委員長に田原靖憲委員長を承認
 4. 委員長及び副委員長あいさつ （15：14）
渡部委員長（以下、「委員長」という）
-
-

：皆さんから愛される資料館、あるいは図書館というものが実現したい。
田原副委員長（以下、「副委員長」という）

：この検討委員会で、素晴らしい図書館を建設していきたいなというように思っている。皆様方の英知を集結して、より良いものにしたい。

5. 諮問（15：17）

川野課長より委員長へ諮問

6. 議事（15：19）

（1）豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会会議の公開・非公開の決定について

委員長：豊後大野市附属機関等の会議の公開に関する要項の第3条に基づいて、会議は公開ということによろしいか。

（異議等なし）

（2）豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会の概要について

川野課長：（説明）

委員長：特に異議はないか。

（異議等なし）

（3）豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会開催スケジュール

小野副主幹：（説明）

委員長：特に異議はないか。

（異議等なし）

（4）市立図書館及び歴史民俗資料館の現状について

太田係長：（説明）

高野係長：（説明）

委員長：質問等はないか。

吉岡委員：本館の数字が出ているが、この本館というのは中央図書館、三重の本館のことか。町ごとの分館の数字は。

太田係長：本館というのは、三重町の図書館です。町ごとの分館の数字は把握していません。

吉岡委員：図書室は図書館の管轄外か。

川野課長：各町の公民館図書室は管轄外で数の把握はしていません。

後藤委員：三重の図書館から借りた本を、公民館図書室で返却可能か。

太田係長：可能です。

杉浦委員：豊後大野のジオパークは熱心であるが4名体制では少ないのでは。資料館を図書館に併設するというのは負担軽減の意味もあるのか。

委員長：そういうようなあり方をどう検討するがこの委員会だと思う。2つの組織がどのような形で、望ましい形で運営していくかということも踏まえた最終

的な提言であるということでもいいか。

川野課長：そのとおりです。

藤内委員：図書室の司書はその4名に入っているか。

高野係長：入っていません。

藤内委員：資料館図書室の司書の方は丁寧である。

衛藤委員：県下の、全国的に見て利用状況は。

委員長：人口1人あたり5冊が全国平均。

衛藤委員：せっかく図書館があっても利用が高まっていかないと（図書館を）作る意味もないと思う。

委員長：フィンランドでは、人口5百万人のところに1,000の図書館。日本は、1億2、3千万の人口で3,275が現状。

杉浦委員：BM（移動図書館の車両）1台で3千冊になる。理解した。

後藤委員：歴史民俗資料館の方の史料等は、小学校もしくは旧公民館とかにもあるのか。それって量はどうやって把握したらいいのか。

高野係長：各旧公民館にありますのが、朝地と犬飼、三重町です。旧公民館にある施設を取り壊して移転してしまったのが、大野、清川町です。朝地の大恩寺小学校跡に集めています。大野町以外は、ほぼ写真まで撮って番号も付けて、簡易的な調査でだいたいの数量は把握しています。ただ、あくまでも簡易的な物なので荷札が取れたりしたら、何だったかわからないとかいうことになりかねない状況です。それらを全て新しい資料館の中に入れるというのは不可能です。また選別というものがうまく出来ていないのが現状です。

衛藤委員：図書館等の建設について、まず市民がそれらを必要かどうか、そこを抑えた方がいいのでは。今のままでは弱いのでは。

川野課長：第二次総合計画を策定する段階で、まちづくり市民会議において、現在の図書館が手狭であったり老朽化しているとした意見が出ました。また文化財は散在して一か所で見られるような状況になっていないという意見もありました。そこで10回の市民講座（“あったらいいな！こんな図書館”）を開催したところです。受講生はこんな図書館が作りたいという意欲がわいていました。非常に性急に見えるかもしれませんが、構想を作っていくってそれを議会、市民の皆さんに見せていきながら「こういう図書館があったら皆さん利用しやすい。」というように啓発していくというような方向で取り組んでいけたらと思っています。

委員長：補足すると、図書館感が、大都市に近い図書館感と、離島だとか半島だとか過疎地域の図書感が若干違っている。そうした今までの経過を踏まえて、どういうところに問題があるか整理し、どこの地にあっても図書館は必要だということを理解いただけるようにしたい。過疎地域であってもかなり力を入れて非常に活発に活動しているところもあるので、そうした実践にも学びながら、どうしたものが利用されるかということ、皆さんと共々に考えながら最終的には提言という形に当てはめてほしい。

工藤委員：幼児向けのコーナーは狭い。不登校の子ども、多動性の子ども、障がい者

と様々な人が図書館と関わっている。

それから、私も歴史民俗資料館に行ったことがあるが、最初場所が分からなかった。もし、そこに講座が聞ける場所があったら、もっと多くの市民がジオとかエコとかいうことに触れ合うことができるのではない。

委員長：そうしたことをここで議論しようというのがまさにこの場である。

高野係長：今の資料館が、緒方町時代の狭いものです。しかしやはり、資料館の中で概要を学んで、外で本物を見てより理解が深まるという形が一番なのですが現在は残念ながら出来ていません。ジオパークというと、どうしても地質学というイメージが強いが大地の営みであり、人間、地球科学、自然科学すべて含めたような総合的な形になっているので、専門性が弱いところもあります。マンパワーをどうするかということも議論が必要です。あらゆる情報を発信できるような場所になる可能性も出てくるのかなと思います。

委員長：図書館になってから第4世代型の図書館になっているが、豊後大野市にふさわしい有り様というものを、この場でみなさんと議論深めていきたいと思っている。今図書館は二極化している。その地域の歴史や文化に関わりのない図書館ができて、全国一律型のものが進展している。そうじゃなく、地域の歴史や文化を大切にしながら図書館経営を目指している方向がある。そういう方向があるということは、次回説明する。博物館も多少はジオパークというものは欧米では、エコミュージアムという考え方があって、現地に行って現地で実際（の展示物）を見るという発想があって、そういうものを整理していくと豊後大野市なりの方法が見えてくるんじゃないかと思う。

衛藤委員：市民が本当に利用したくなるような図書館作りが非常に重要だと思っている。合わせて歴史民俗資料館についても、ジオの認定を受けて市民の機運が徐々に高まってきたなとそれを私も非常に痛感しているが、一方で今の資料館は狭い。しかしやはり市民全体の皆さんと一緒にこの建設を進めていくという、その部分を除いてしまったら、先ほどから繰り返しているように、作ってもあまり利用されない、来てくれないという状況になるがそれだけは避けなくてはならない。市民と共にこの図書館建設作りをする、資料館作りをしていく、そのところをしっかりと持ちながら、私みたいに今まで図書館を利用しなかった者が、自分で買わないで、出来るだけ図書館を利用して活用するというふうになっていったらいいなと思う。

委員長：意見はボトムアップ型の図書館を目指す、資料館を目指すという方向であり、この会議はスタートからその方向なので、今後も大きくはブレないと思う。

杉浦委員：正直最初はスケジュールがタイトなので、大丈夫かなと思ったが、市民と往復運動のある経営力のある図書館を作るぞという話でちょっと安心した。一方3月13日に答申することなので、今後その日までに（今回参加していない）市民の意見が自分たちとしては魅力的だと思ったら、それを取り入れていくことができるような、市民との往復運動のことがあるのか。

川野課長：この会議は公開にしてホームページにも掲載していきますが、この会議を

開催するたびに「今はこんな状況である。」と各地で報告するのはなかなか難しいと思います。ただし「委員会ではこういう意見、建設の方向性というのが一方で示された。これに対して、市民の皆さんはどういう意見を持っているか。」というパブリックコメントを求めていくというようなやり方でいこうと思います。

委員長：いいか。

杉浦委員：よい。

渡邊委員：正直今の図書館はそれなりに利用しやすい、良い図書館である（と私は思っている）。一方、一般市民から見たら「今何で図書館（の建設検討）なんだろう。」という疑問を相当程度の市民が抱いていると思う。なぜ図書館を作らないといけないのか、建て替えないといけないのかということに対して、大きな図書館の役割（重要性）や、今の図書館が手狭であるということを広く言っておかないと、あの人たち（検討委員）は何をしているのだろうというように思われるかもしれない。

もう一点、文化財について、豊後大野市は石橋や磨崖仏、石塔の指定数等、県下自治体と比較しても多く、全国で見てもトップクラスである。それだけ凄い市だということを知っているのは、実は知らないのでは。よりきちんとしたPRをしていかないといけない。結局は、商工観光のためにも凄く大事であるし、子どもの教育のためにも大事だということで、今回のこの検討委員会が、いかにこの町の将来を左右する重要なことであるかというのが何か見える形で進めていった方が良いのではないかと。そういう意味で図書館と資料館が一体となった運営というのがこれからは大事じゃないかなと思う。

委員長：そういう方向で検討するということでよろしいか。

後藤委員：私は17年前に転入してきたがその時に図書館が小さいと感じた。現在市の規模にしたら小さいし、古いし、汚いと思う。そのような中、図書館の職員の方は図書館をいかに明るく見せるかということを念頭に、レイアウトを高くしないように、野積みしないように、広く見せられるようにしたり、可愛いイラストをたくさん毎月替えてしたりしてくれている。雨漏りもするため何度か改修もしている。また蔵書が約7万冊というのは今の図書館では本当入りきれていない。中学生などが自習する場所がなかなかない。図書館の状況について自分たち子育て世代は、なぜ大型の図書館を整備してくれないのかと話をしている。また、並行して各公民館図書室の充実を図ってほしい。

委員長：今MLAK連携（ミュージアム【博物館】、ライブラリー【図書館】、アーカイブ【映像等】、公民館）を連携しようというような事業が各地で進んでいる。それぞれの役割が明確にされて、住み分けがされて、それぞれの機能が高め合う関係性をここで議論して、望ましい図書館像、資料館像を最終的に提言できればというように私は考えている。私は9千人の町で、約3,000㎡の、30万冊収容の図書館を作った。そして利用も日本でトップクラスにな

った。この事業は、モニュメントを作るわけではなく、利用されるためにどうするかということを追求するような委員会になっていけばということを考えている。タイトなスケジュールではあるが、真剣な議論を通して、提言が出来ていけばと委員長として思う。

吉岡委員：三重に立派な図書館を作るというのは賛成だが、果たして万遍なく各地域の人が利用できるのか。各公民館図書室や、歴民俗資料館図書室がどれくらい使われているのか調べるべきである。豊後大野市は必ずしも交通が便利というわけではないので、それぞれ残さなきゃいけないものもあるだろうと思う。公民館図書室と中央図書館がどういう連携を取っていくのがいいのかということも、検討しなければいけない課題であると思う。市の特色、特徴をちゃんと考えて、また現状のデータを事務局にはもうちょっと出してほしい。

委員長：貴重な意見である。図書館は建物を作るのではなく、システムを作るのである。

藤内委員：図書館については、子どもだけでなく当然大人も利用する。大活字本を入れたり、もっとふるさと納税で購入した図書をアピールした方が良いと思う。大人（保護者）が利用しやすい図書館になれば子どもたちも図書館を、例えば待ち合わせ場所として利用するのでは。あらゆる世代の利用を高めていければと思う。

委員長：ユネスコの公共図書館宣言で、図書館は「いつでも、どこでも、誰でも学べる体制」であるという認識が世界中で広がっている。

杉浦委員：（豊後大野市が）1人あたり2.5冊くらい貸し出しているの、5冊というのも夢じゃないなと感じている。私はユネスコエコパークの認定に関する責任者をしているがエコパークについて、関係3市（豊後大野、竹田及び佐伯）の中で豊後大野が最も素晴らしいと思う。また市では「生物多様性豊後大野戦略」というのも策定している。文化財係の専門機関の人達がやって初めてジオパークが実のあるものになってきたので、予算や人の限界はあるかもしれないが、図書館（建設検討）の新しい委員会としては理想を込めて色々な可能性も含めて、チャンネルとして考えていただければありがたい。

佐藤委員：図書館の建設地を三重ありきで始めるのはいかがなものかなと最初から思っていたが、先生の話“あったらいいな！こんな図書館”市民講座を10回受講し、システムを作るんだということで、システムの分館方式という形がいいのではないかと思った。先ほどの杉浦委員の話聞き、何もかも一極集中で三重に集めるのはいかがなものかなという気がしている。

田原委員：今後ともよろしくお願ひしたい。

上野委員：私も学校現場にいるので学校での意見を聞きたい。

委員長：今日、初日初回ということであるが、構想、スケジュールの説明を聞き、また委員の思いも聞いた。豊後大野市の望ましいやり方を皆さんとともに検討いただけたらと思っている。では今日は終わりたい。

後藤委員：個人的にSNS、フェイスブックを通じて活動報告して良いか。

川野課長：特に規制はありません。

後藤委員：アンケートは良いか。

川野課長：検討委員会委員に委嘱したのでその立場で行えばよいです。

7. 閉 会 (16:46)

記録者：小野